

# 廃熱利用の自立 電源キット提供

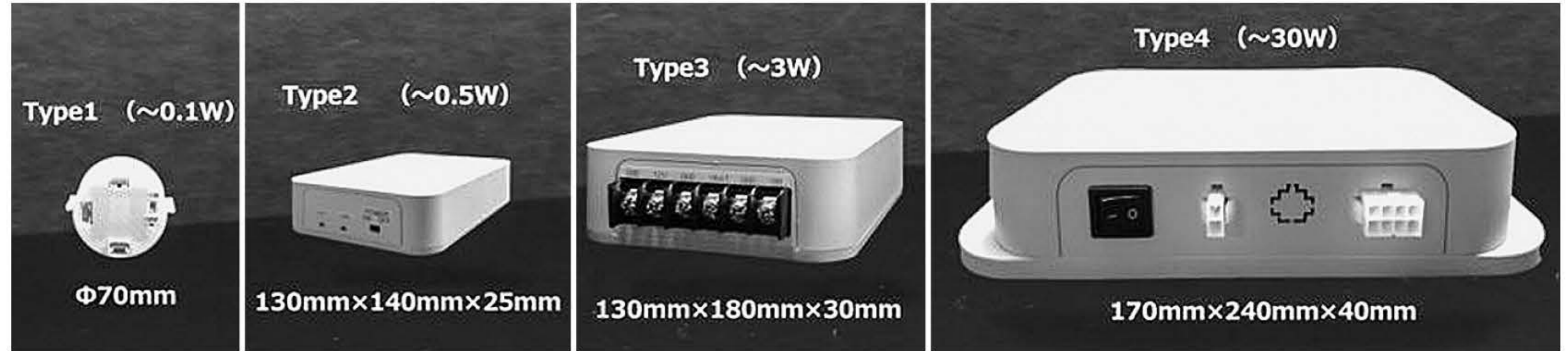
ダイヤゼブラ電機  
IoTデバイス向け

電機部品の開発・製造を手掛けるダイヤゼブラ電機(本社・大阪)は、IoTデバイス向け自立電源システムデモキットの提供を開始した。熱電発電ベンチャーのEサーモジェンテック(同・京都)が開発したモジュール「フレキナー」と組み合わせ、施設の廃熱で発電する。

電源システムは、使用電力の目安が0・1ワットまでのタイプ1、0・5ワットまでのタイプ2、3ワットまでのタイプ3、30ワットまでのタイプ4という4種類の仕様を用意。無線モジュール、温度センサー、直流電力センサー、交流電流センサー、振動(音響)センサー、流量センサー、カメラ、LEDライートを接続できる。

自立電源のため、電力線などが敷設困難な場所でも電池交換せずにIoTデバイスを利用でき、従来は排出されていた熱エネルギーを活用することで持続可能な社会の実現にも貢献。プラント、ビル、交通信号機などの社会インフラ、自動車、

使用電力量に応じて選択  
できる電源システム



データセンターといった各種施設で応用可能とみている。

フレキナーは、廃熱を直接電気に変換する薄型のフレキシブルフィルム発電モジュール。感度を高めるためにBiTe(ビスマステルル)系熱電素子を用い、低温廃熱の回収にも対応する。モジュールは湾曲できるため配管などの円筒状熱源に密着可能で、高効率な熱回収を実現させる。